



地域幸福度（Well-Being）指標活用に向けて

2023年3月16日

Digital Smart City HAMAMATSU



デジタル・スマートシティ推進課



デジタル田園都市国家構想基本方針より

- Well-Beingの実現等を通じて、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
- その暮らしが本当に向上しているのかどうか、Well-Beingの視点を大切にした取組を進めていく。



Well-Beingに係る指標の整備、活用の推進

指標の効果

- ✓ 地域ごとの特徴が把握できる
- ✓ 地域全体で目指したい姿の検討を行う場合、議論や検討の内容が具体的になる
- ✓ 指標をKPIとして持つことで、地域の様々なプレイヤーが自分たちの活動を評価しやすくなる

指標の活用例

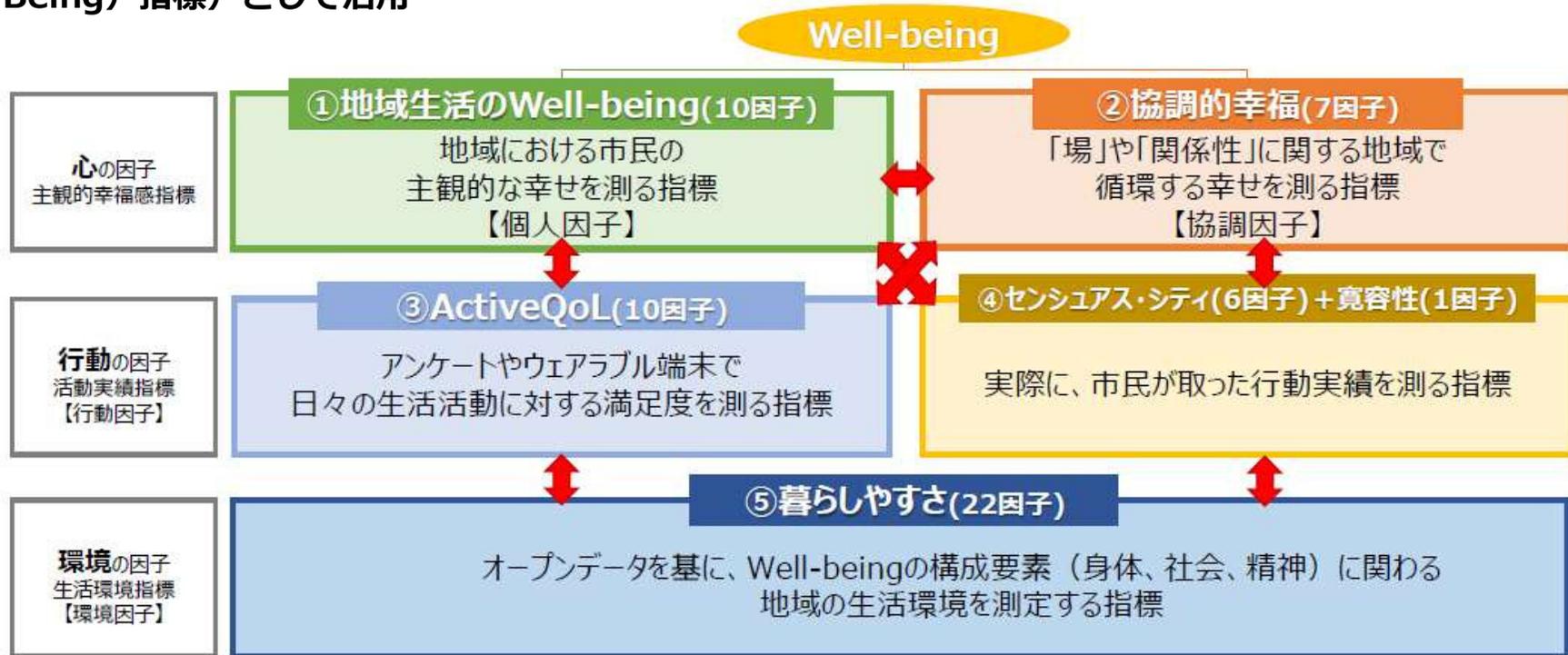
- ✓ 公開された指標を活用しあるべき姿を考えるワークショップの実施
- ✓ 仮説立案、証拠に基づく政策立案や評価（EBPM）の推進



デジタル庁
デジタル社会の実現に向けた重点計画（概要）より

地域幸福度（Well-Being）指標とは

- ◆ （一社）スマートシティ・インスティテュート（SCI-J）が、日本独自の市民の幸福感を高めるまちづくりの指標として、**Liveable Well-Being City 指標（LWC指標）**を開発
- ◆ 政府が推進する「デジタル田園都市国家構想」において、LWC指標が地域におけるWell-Beingを計測する指標（**地域幸福度（Well-Being）指標**）として活用



Liveable Well-Being City 指標の体系図（出典：SCI-J）

Well-Being指標活用の目的

スマートシティ・まちづくりにおける「人間中心主義」を明確化

デジタルやデータではなく、市民の幸福感（Well-Being）の向上に向けてスマートシティ・まちづくりを始める

市民の視点から「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-Being）」を数値化・可視化

行政、企業からではなく、市民の視点に立ちスマートシティが市民の暮らしやすさや幸福感に繋がっているか、を確認しながら進める

ランキングではなく、自治体が「個性を磨く」機会を創出

都市の個性を更に磨く気付きの材料となり、それぞれの都市の特徴をグラフの形や数値から捉えることができる

WHO等の国際的な枠組みを導入

世界的な基準と整合させた枠組みを導入し、日本のガラパゴス化を回避する

客観と主観データの両方を活用。無料でオープン化

基礎自治体毎の客観的に測定できるデータと市民の主観によるアンケートデータの両方を無料で利用できる

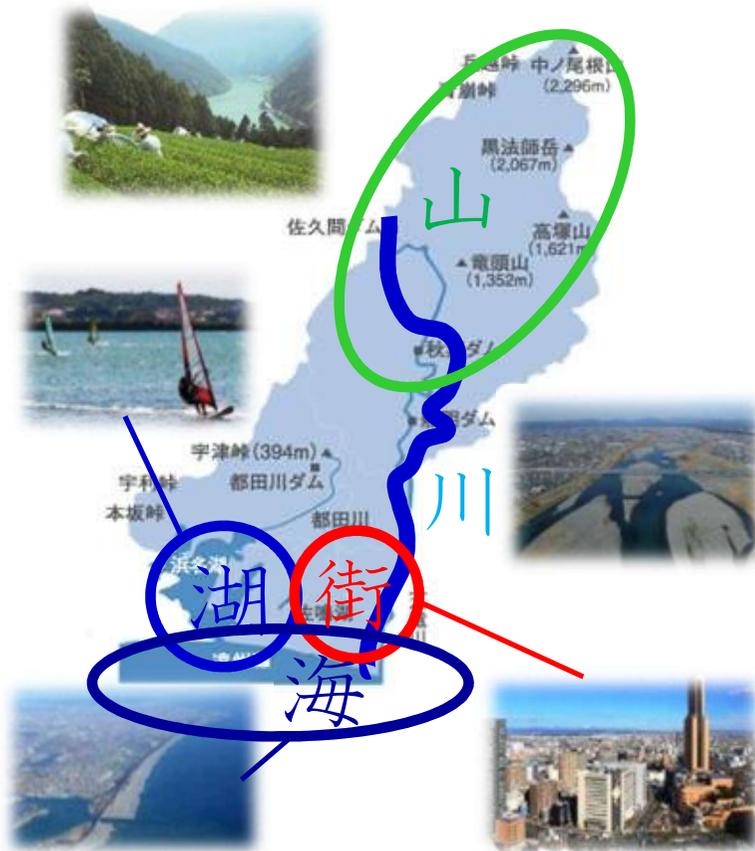
まちづくりのEBPM・ワイズスペンディングに役立てる

データ(根拠)に基づいた政策立案・検証や、政策効果が乏しい歳出から政策効果の高い歳出への転換に活用できる

浜松市が進めるデジタル・スマートシティの背景

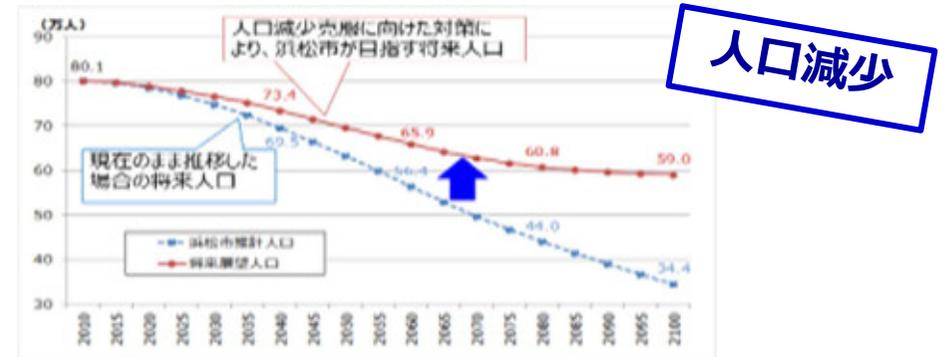
国土縮図型の政令指定都市・浜松

全国の市町村が抱える課題を凝縮



- ① 広大な市域【全国第2位】（市域の約67%は森林）
- ② 道路総延長【政令市第1位】
- ③ 橋梁数【中部地整管内第1位】
- ④ 過疎地域を内包（みなし過疎地域：市域面積の約50%）

<人口の将来展望：人口ビジョン>



浜松で持続可能な都市モデルを確立できれば
日本全体のモデルとなる

浜松市デジタル・スマートシティ構想

将来像

～デジタルで“繋がる未来”を共創～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoLの向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。

目指す方向性（基本理念）

「市民QoLの向上」と「都市の最適化」

必要な視点1

オープンイノベーション

イノベーションの創出に向け、組織や分野等を超えた共創のまちづくりを推進します。



必要な視点2

市民起点/サービスデザイン思考

デジタルは、「市民QoL」「都市の最適化」のための手段と捉え、“市民起点”のまちづくりを推進します。



必要な視点3

アジャイル型まちづくり

スモールスタートでまずチャレンジし、トライ&エラーを繰り返し、変化に強いまちづくりを推進します。



基本原則1

オープン/相互運用性

基本原則2

包摂性/多様性

基本原則3

透明性/プライバシー

基本原則4

持続可能性

基本原則5

安全・安心/強靭性

R3.3策定

Well-Being指標活用の方向性

国（デジタル田園都市国家構想）

Well-Beingに係る指標の整備、活用の推進



Well-Beingの視点で
暮らしやすさと幸福感を実感できるように
Well-Being指標を活用していく



浜松市（デジタル・スマートシティ構想）

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し「**市民QoLの向上**」と「**都市の最適化**」を目指しデジタルで“繋がる未来”を官民で共創

Well-Being指標・先行活用する4分野

選定の観点

- ◎ 市民の幸福度向上への寄与度
- ◎ デジタル・スマートシティの取組方針との親和性

ウェルネス分野

市民がいつまでも健康で幸せに暮らせる「予防・健幸都市」の実現を目指し、官民で取組を推進。



カーボンニュートラル／エネルギー分野

再生可能エネルギー導入容量日本一の特徴を活かし、産学官金によるプラットフォームを形成し、様々なスマートプロジェクトを推進。



交通／モビリティ分野

広大な市域や自動車産業が盛んな都市の特徴を活かした取組を推進。

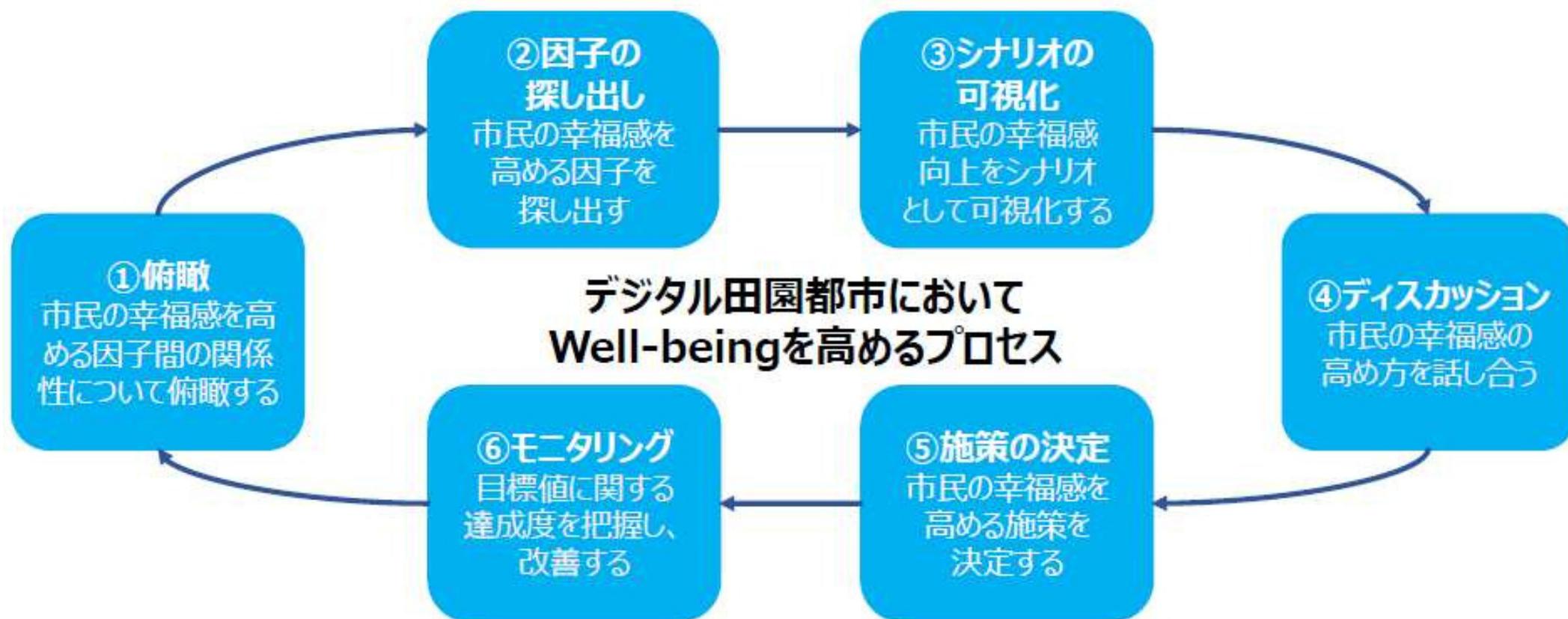


スタートアップ分野

スタートアップと地域のものづくり企業との融合による新産業の創出を目指す。



Well-Being指標の活用プロセス



LWC指標利活用ガイドブックより（出典：SCI-J）

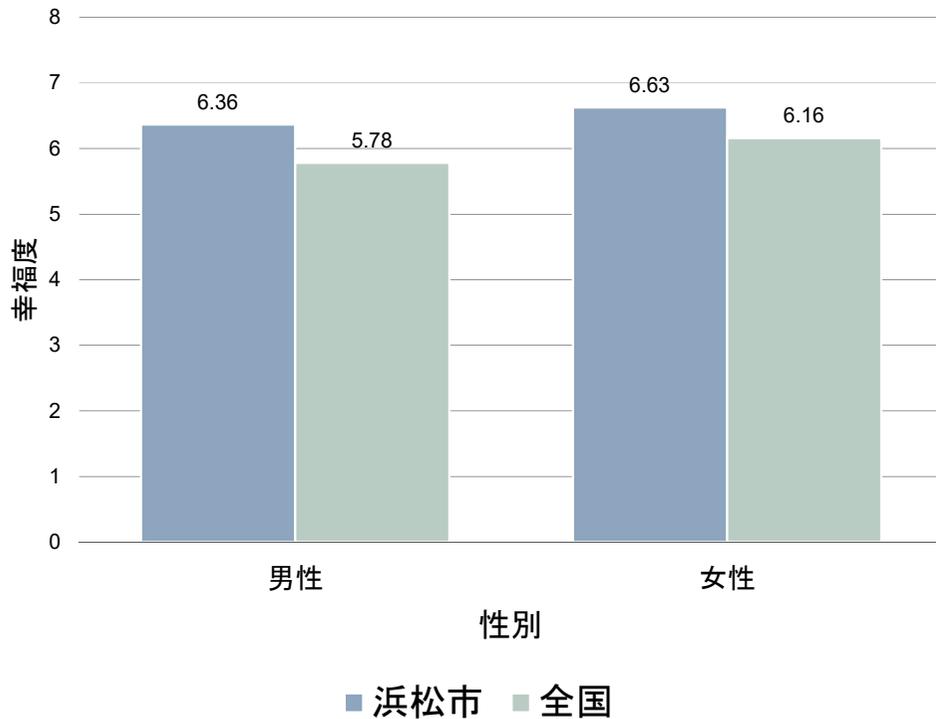
浜松市民の幸福度調査について

- ◆ 「令和4年度浜松市LWC指標活用支援業務」(デジ田交付金を活用) 委託業務内容の一つとして実施
- ◆ 短期間で必要な有効回答数を得ること及び回答品質管理のため、民間アンケート事業者の協力を得た

調査地域	浜松市全域
調査期間	令和4年11月25日～11月28日
調査方法	Web
調査対象	令和4年11月25日現在で市内に居住する18歳以上の男女 (17,645人)
回答状況	1,805件 (回答率10.2%)
全設問数	150問 (SCI-J公開のLWC指標主観アンケートと共通: 123、市独自: 27)

浜松市民の幸福度（市全体）

性別幸福度（浜松市 vs. 全国）

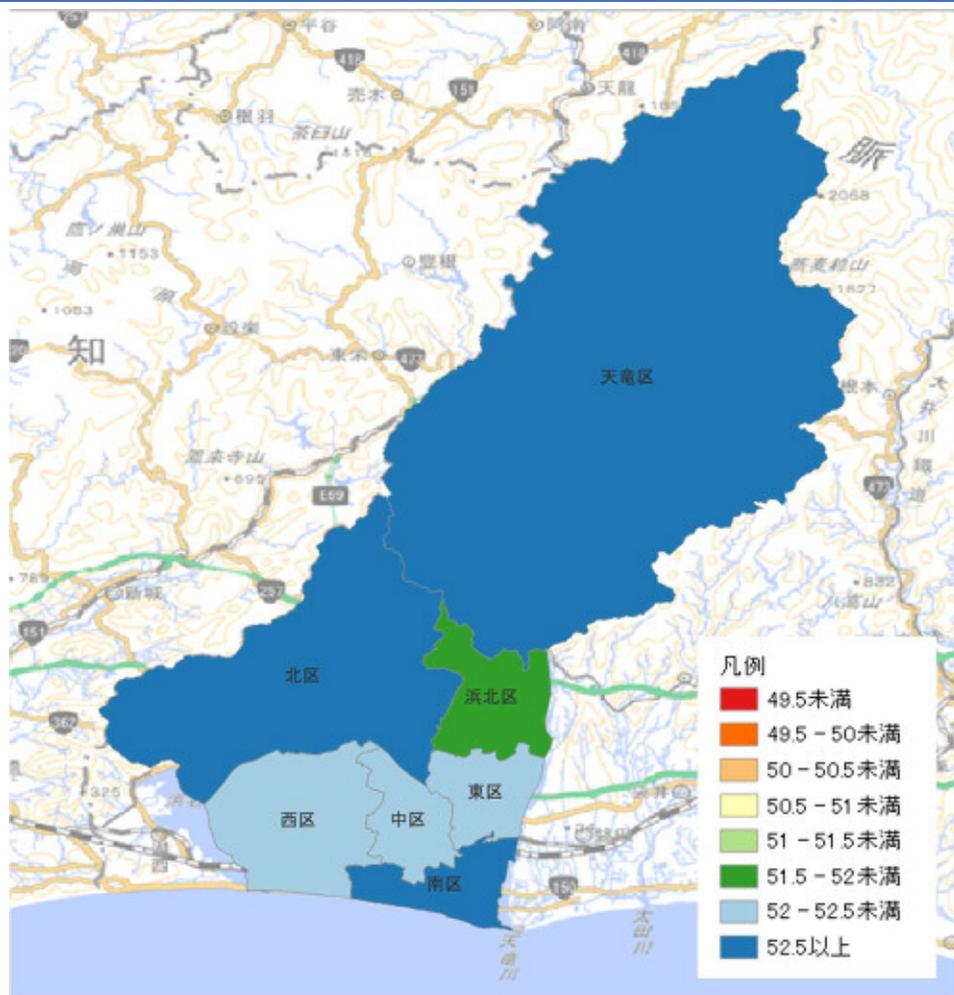


年代別幸福度（浜松市 vs. 全国）



◆ 浜松市民の幸福度は、男女とも、また全年代においても全国平均より高い。

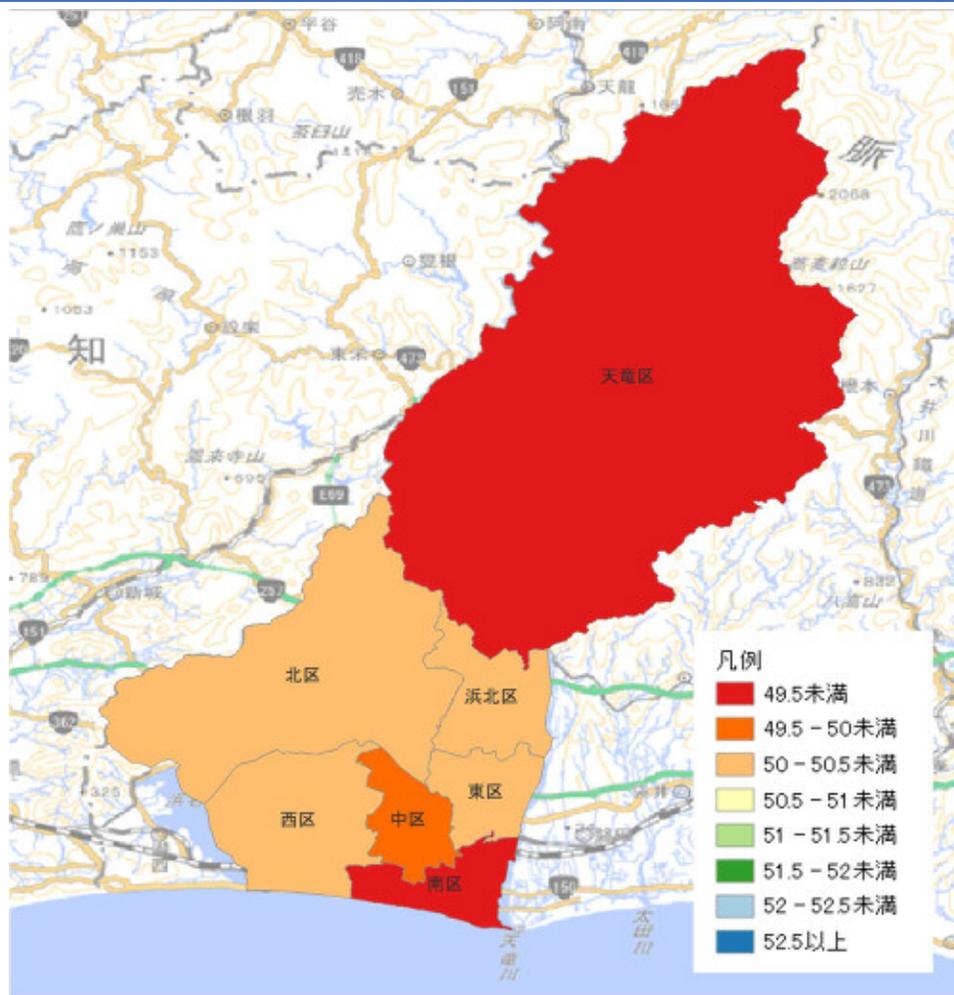
【地域別】浜松市民の幸福度



特徴

- 浜松市民の幸福度は、全地域において全国対比での偏差値が51.5以上と高い（偏差値算出の母集団は、SCIJの全国先行調査パネル数約34,000件）
- 中でも、天竜区、北区、南区は同偏差値が52.5以上と、非常に高い
- 天竜区や北区、南区の値は全国対比でも特に高い
⇒幸福度を高める要因（推察）
 - ・豊かな自然
 - ・環境共生の取組など
- 他の地区も、全国平均を下回る地域は無く、浜松市は全体として市民が幸福感を感じられるまち

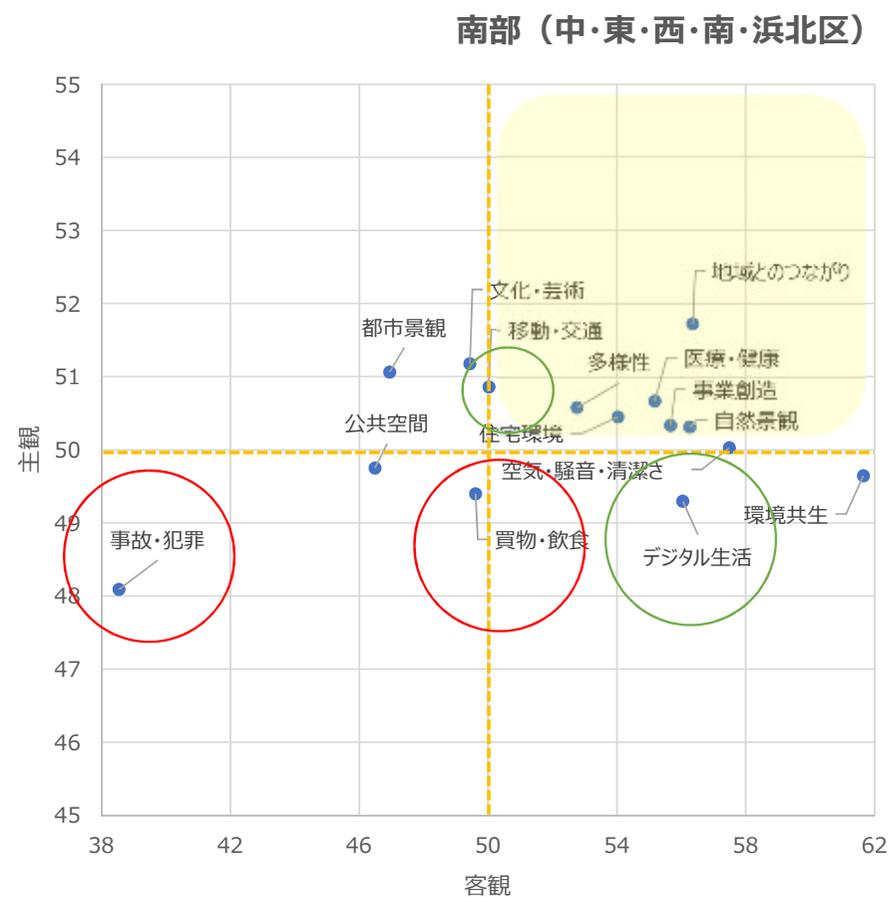
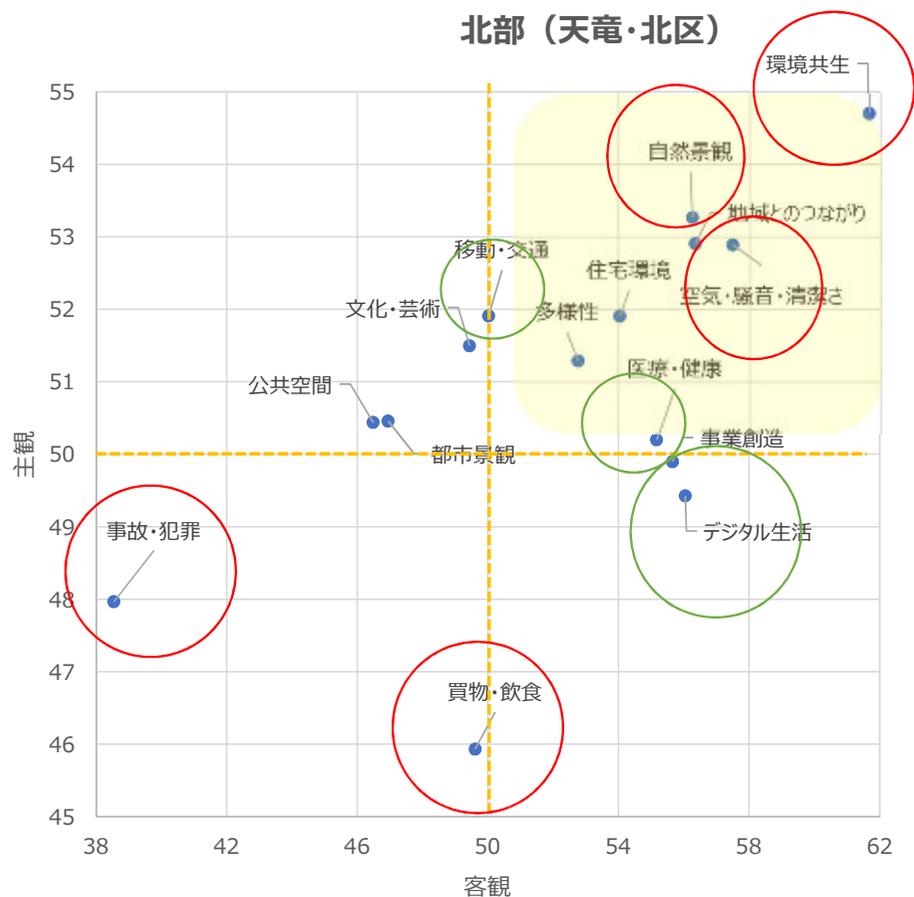
【地域別】浜松市民の暮らしの満足度



特徴

- 浜松市全域で全国平均並みか、やや低い偏差値となった
- 特に、幸福度が高かった天竜区と南区について、地域の暮らしに関する満足度が全国平均を下回る事は特徴的
- 天竜区については、Weii-Being指標のカテゴリー“買物・飲食”について、主観指標・客観指標ともに低いことが要因の一つと推測される

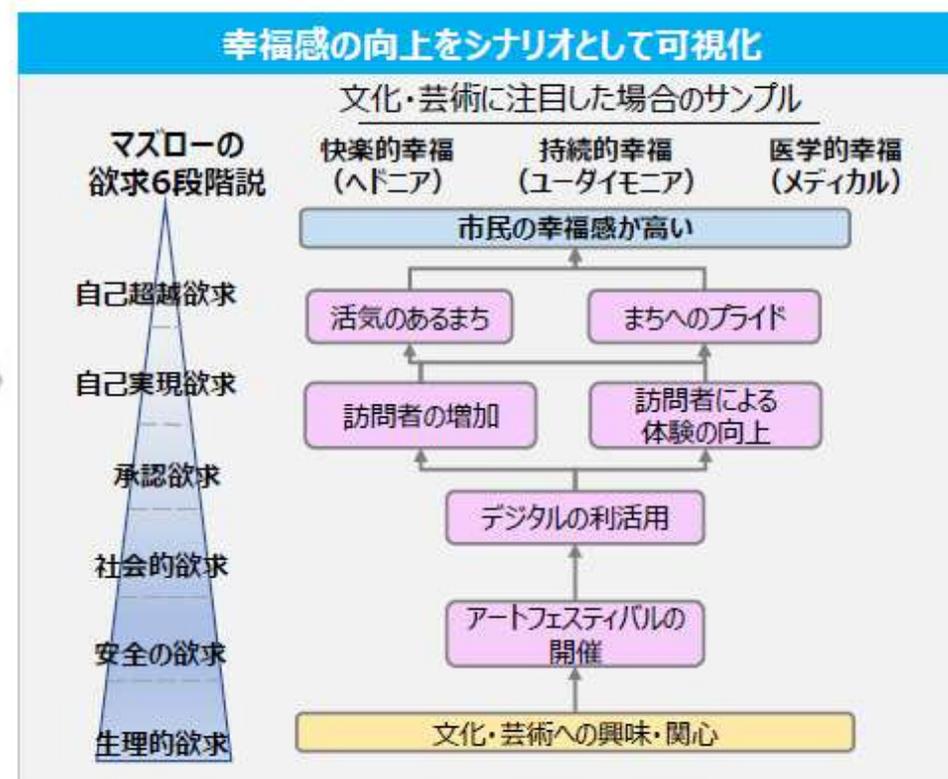
LWC指標（客観×主観） 各エリアの特徴



- ・ 全体的に北部の幸福度が高い（源泉：環境共生、自然環境、空気・騒音・清潔さ）。北部のポテンシャルを南部の市民が感じられると効果が大きいのでは。
- ・ 移動・交通は満足だが買物・飲食は低い（とくに北部）。

市民の幸福感向上をシナリオとして可視化

- ✓ データの背後にある市民を想い、市民が抱えている課題やニーズを深掘りする。
- ✓ データ分析に偏り過ぎず、地域独特の情報や文化も踏まえ、地域での取組みがどのように市民の幸福につながるかを表す仮説を立て、シナリオとして可視化。



今後のシナリオ活用の想定

官民連携によるまちづくりを推進するため、
行政だけでなく、民間企業や各種団体においても活用を促進

【官民連携組織でのシナリオ活用例：交通・モビリティ分野】

モビリティ分野のシナリオ



浜松市モビリティサービス
推進コンソーシアム

- シナリオをもとに、官民連携組織で意見交換を行う
例) 調査結果や市民像・シナリオ等について、より多様な視点で意見交換を行う
- シナリオに沿って民間や官民連携で実現できそうな取組を考える
例) サービスレイヤーにおけるWell-Being向上に資する取組をワークショップ等により検討し、実施していく
- 会員やコンソーシアムの取組が、想定した市民像のWell-Being向上に繋がっているか取組の効果測定、KPIの定点観測により検証